



互いの取り組みに学ぶ課題解決 ～第19回日中韓3か国地方政府交流会議より～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

交流会議の概要

2017年8月28日から9月1日までの5日間、韓国^{フルザン}の東南部に位置する蔚山広域市^(注)において、韓国・市道知事協議会および蔚山広域市の主催により、第19回日中韓3か国地方政府交流会議が開催されました。当会議は、自治体職員を主な対象とし、日中韓3か国の輪番制で開催されていますが、今回は日本参加者が国外開催

では過去最高の104人となり、韓国・中国と合わせて480人による大規模な交流会議となりました。

「新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた東北アジア地方政府発展施策の模索」をテーマとし、日中韓3か国の自治体による講演やパネルディスカッションを通じた意見交換を行うとともに、「交流の広場」などを活用しながら交流関係の発展につなげる貴重な機会となりました。

第19回日中韓3か国地方政府交流会議
基調講演 「地方政府が牽引する平和と繁栄の北東アジアへ」 大韓民国大統領統一外交安保特別補佐官（延世大学特任名誉教授） 文 正仁 氏
主旨講演 「新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた東北アジア地方政府発展施策の模索」 [韓国] 蔚山広域市長 金 起炫 氏 [中国] 山西省発展研修センター 主任 李 勁民 氏 [日本] 新潟県新潟市長 篠田 昭 氏
パネルディスカッション 1 「産業と観光をつなげた観光融合・複合の提案」 [中国] 安徽省宿州市 副市長 李 朝暉 氏 [日本] 愛知県振興部観光局長 加納 國雄 氏 [韓国] 京畿道光明市 副市長 李 春杓 氏
パネルディスカッション 2 「エコシティ環境づくりと持続可能な発展施策の模索」 [日本] 福岡県北九州市 副市長 松元 照仁 氏 [韓国] 釜山広域市南区 区庁長 李 鐘吉 氏 [中国] 江蘇省鎮江市発展開発委員会 副主任 周 德榮 氏
パネルディスカッション 3 「少子高齢化の深化にともなう地方自治体の政策的努力」 [韓国] 全羅南道海南郡企画広報室長 蔡 成基 氏 [中国] 遼寧省大連莊河市 副市長 于 成福 氏 [日本] 高知県梼原町長 矢野 富夫 氏

基調講演

基調講演では、「地方政府が牽引する平和と繁栄の北東アジアへ」というテーマで、文・大韓民国大統領統一外交安保特別補佐官が地方政府の交流が北東アジアの連帯を堅固にすると語りました。会議当日の早朝に北朝鮮のミサイル発射があったことに触れ、このような情勢に対応するためにも地方政府の連携が大切だと主張しました。

主旨講演

主旨講演では各国の代表者が会議テーマ「新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた東北アジア地方政府発展施策の模索」に沿って講演を行いました。韓国・蔚山広域市の金市長は、産業都市として急速な発展を遂げてきた同市が、今後は人口知能や自動運転などの新たな時代に対応するための政策転換を目指すという取り組みを発表しました。中国・山西省の李主任は、資源依存型経済からの転換という切り口で、同省においてどのように石炭からクリーンエネルギーへの転換を進めているかについて発表を行いました。

日本からは新潟市の篠田市長が、農業と観光による都市の活性化のほか、環境、文化、国際交流などの各政策を通じた都市の成長に向けての取り組みを発表しました。いずれの発表も質疑が活発に交わされ、参加者にとって興味深い先進的な取り組みでした。



主旨講演を行う新潟市・篠田市長

パネルディスカッション

パネルディスカッション 1

サブテーマ「産業と観光をつなげた観光融合・複合の提案」では、まずは中国・宿州市の李副市長が、歴史都市である同市の戦略的基幹産業として観光に重点投資していく計画を紹介しました。愛知県に加納局長は、先進的な自動車産業や伝統的な常滑焼など、同県の有する産業技術の観光資源としての活用について発表しました。また、韓国・光明市の李副市長は廃鉱となっていた光明洞窟を活用した観光政策について紹介しました。

パネルディスカッション 2

「エコシティ環境づくりと持続可能な発展施策の模索」には、北九州市の松元副市長が参加しました。高度経済成長期の公害を乗り越えた同市の「世界の環境首都」を目指す取り組みとその国際展開について紹介しました。

韓国・釜山広域市南区の李区庁長は、自然保護協議体の運営など、住民主体による環境づくりの取り組みを紹介しました。また、中国・鎮江市の周副主任は環境を優先した低炭素都市建設の具体的取り組みを紹介しました。

パネルディスカッション 3

「少子高齢化の深化にともなう地方自治体の政策的努力」では、韓国・海南郡の蔡室長が徹底した出産奨励施策による出生率向上の取り組みを紹介しました。中国・大連荘河市の于副市長は介護施設や自然環境を組み合わせ、豊かな生活を高齢者に提供する取り組みを紹介しました。

高知県梶原町の矢野町長からは、住民との対話により地域で課題を解決し、人口の社会増につながるまでの取り組み実績が発表されました。

交流の広場

「交流の広場」では、日中韓3カ国で21自治体が参

加し、互いの自治体が今後の交流方針について話し合い、新たな交流を模索する姿が見られました。担当者同士で顔を合わせる貴重な機会を利用し、20分の予定を大幅に超えて1時間ほど話し合う自治体もありました。



日本と韓国の自治体担当者による交流の様子

会議を通じた学び

発表団体はもとより会議参加団体からは、それぞれ共通の課題に係る各国のアプローチに共感し、新たな気づきを得ることができたという感想が寄せられました。日中韓3カ国は、地理的・文化的に近く、観光、環境、過疎化対策など、さまざまな分野で共通の課題があります。このように、本会議は参加者が互いの取り組みに興味を持ち、そこから交流を始め、深めていくことに意義があるのではないのでしょうか。3カ国の参加者からは、互いの取り組みに学び、協力して課題を解決していこうという強い意思が感じられました。

また、会議外では言葉の壁を越えて親しげに話す参加者も多く見られました。会議においても述べられていたように、持続的な交流を行うことが、国を越えた平和と安定の実績につながり、北東アジアの未来を牽引することができるのだと感じました。

第20回・第21回会議

記念すべき次回の第20回会議は、中国・河南省開封市での開催が予定されています。日中韓3カ国における新たな交流や互いの関係を発展させる貴重な機会です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

また、次の日本開催となる第21回会議についても、今年度、開催候補地を募集していくので、ぜひ奮ってご応募ください。

(注)「世界の地域から」(裏表紙)に蔚山広域市の写真を掲載しています。